

平成 27 年 7 月 7 日

千葉木鶏クラブ

(362 回 例会)

孔子と『論語』(第 8 回)

道徳的逸脱により文明は崩壊する。アーノルド・J・トインビーは明言。戦後長く敬遠されてきた「道徳教育」が、小中学校でようやく本格的に行われようとしている。

道徳性を養い心情を育てて行こうとする方向性に賛成する。

『論語』は道徳の宝庫。“学んで時にこれを習う、また説しからずや”楽しくもなります。どなたでもいつでも歓迎の千葉木鶏クラブです。

皆様のお越しをお待ちしています。

記

1. 日 時 : 平成 27 年 7 月 25 日 (土)

PM 16 時 00 分 ~18 時 00 分

2. 場 所 : 千葉生涯学習センター ☎043-207-5811

<交通案内>JR 千葉駅東口から 徒歩 8 分 駐車場有り

3. 会 費 : 1000 円

4. 演 題

(1) 第一部 孔子と『論語』(第 8 回)

「器」と「道」 安岡 正篤 先生、生の声にてわかり易く説明。

(2) 第二部 『東洋学と詩吟』

指導 鈴木 岳靖 先生

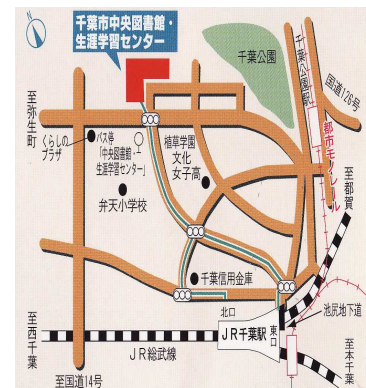
岳風会

(日本詩吟学院)

以上

千葉木鶏クラブ 代表兼事務局 丸島 忠夫

Email : marushima_t@snow.plala.or.jp Tel : 0475-25-1211 Fax:0475-38-5153



第 8 回 「器」と「道」

<型にはまらぬ自由人>

子曰く、君子は器ならず。

為政第二

解釈：「できた人物は、特定のはたらきを持った器のようではない。」

<子貢は瑚璉の器>

子貢問いて曰く、賜（し）や如何（いかん）と。

子曰く、女（なんじ）は器なりと。曰く、何の器ぞやと。曰く、瑚璉なり。

公冶長 第五

解釈：「私（賜（し））はどんな人物でしょうか」

先師が答えられた。：「お前は器である」

子貢は不満そうに尋ねた。

「それではどういう器でしょうか」

「先師が答えられた。」：「祭りに用いる大切な器だね」

< 人物とは いかなる人間的要素を具備すれば人物といえるか >

- ① まず根本的に気力、心身一貫した生命力が具わっていなければならない。それは「浩然の気」（『孟子』）に通ずるものである。
- ② 次に大切なものは志（理想）である。気力とは生を実現しようとする絶対者の創造的活動であるから、必ず自らを実現しようとする何物かを念頭に発想する。これを志という。
この場合、気は進んで志気となり、志操となり志節となり、胆気となる。
- ③ 「義は利の本」「利は義の和」という。義と利の弁別を「義利の弁」という。こういうことの価値判断力を見識という。特にそれが現実の矛盾や悩みに屈しない実行力を持つとき、これを胆識という。
- ④ ここに現実の生活や社会に対する標準、尺度が生じ、器度（度はものさし）、器量（量はます）ができる。これを結び付けて器識とか識量とも言う。
古代、宰相を阿衡と言った。（阿は倚（い）に同じ、衡は秤の棹、すなわち平直（公平）を意味する。）
阿衡とは、世の人が寄りかけられる存在。天下万民を信頼させ、万事を公平に裁くことが出来るという意味である。
- ⑤ こういう人間内容が練磨されると、深さ、確かさ、不動性を大きくする。これを信念という。金剛教に曰く、「一切の有為の法は夢幻泡影の如く、霧の如くまた雷の如し」（六如偈）
- ⑥ 人が万物と生を同じくするところから生じる共鳴を愛情という。知を頭脳の論理とすれば、愛（情）は心腹の論理である。（仁 慈悲）
- ⑦ こういうときもろもろの徳が和合してくると、宇宙も生命も人格も一つのリズムを生じ、人間そのものが音楽的になる。これを風格、風韻、韻致という。すなわち人物になると、どこかしつとりと落ち着いて、手紙で、なごやかに、声も潤い、響きがあって、その人全体がリズムカルになるものである。

以上